

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100075		
法人名	社会福祉法人大樹		
事業所名	グループホーム木かげ I 番館		
所在地	宮城県仙台市青葉区西勝山14-8		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域、医療と連携を確保しつつ、入居者様主体の日常生活を基本とし、個別のケアに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市青葉区の北西部にある閑静な住宅街に2009年に設立された2ユニットの事業所である。母体法人は「社会福祉法人大樹」で、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護が隣接し防災訓練など連携して実施している。事業所理念は「利用者の尊厳を最大限守ること」と、「住宅地に立地する施設として地域住民との触れ合いに努めること」を掲げている。法人の理事長が医師で、かかりつけ医でもあり、看護師とも連携を図り支援していることで、家族はもとより職員の安心に繋がっている。12月からは家族との面会もワクチン接種証を確認し再開している。利用者は周辺の散歩など外気浴で季節を感じ表情が明るくなるので、今後はミニドライブ等の外出再開を考えている。管理者は夜勤時などに職員と一対一で話す機会を設けるなど、副管理者と共に常に話しやすい環境作りに取り組んでおり、長く働く職員が多い。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム木かげ）「ユニット名 I 番館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・談話室に掲示しいつでも見れるようにしている。	法人の基本理念、事業所理念、ユニットごとのスローガンを掲げ、ケアに活かしている。迷ったり不安になった時に振り返れるよう、確認しやすいところに掲示している。理念は年度初めに再確認し、スローガンは利用者の状況変化にも合わせ都度変更し運営に生かしている。特に、地域との関りを重視し理念を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍でできていない。	町内会に加入し、地域との交流を大切にしている。コロナ禍で新年会、老人会、敬老会などの行事に参加出来なかった。少しずつ町内会の活動が始まり案内はあるが状況を考慮し控えている。新年会など今後の交流は状況に合わせて検討し、進めていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設見学自体は実施しているが、コロナ禍の感染予防対策として、玄関までの見学になっていため、施設内の雰囲気を感じて頂くことができない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催できず。2ヶ月に1度「ご様子」として木かげの現況お伝えしている。意見箱も設置している。	隔月、町内会長、副会長、地域包括職員、民生委員、班長、利用者が参加し開催していた。コロナ禍で事業所の情報は文書で配布していたが、12月からは状況を見ながら再開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・必要時連絡を取り合っている。	入居状況や事故報告など都度連絡している。新型コロナ関連の情報はメールや郵送で届き、ワクチン接種状況の報告や問い合わせも行っている。地域包括職員が運営推進会議に参加し、情報交換が図られ連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修やカンファレンスを通して意識確認、統一を行っている。 玄関の施錠については防犯上施錠していることがある。(夜間のみ)	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、研修も行っている。ヒヤリハット事例をより把握しやすくするため、書式を見直すなど検討している。外出傾向の強い利用者には中庭を一緒に散歩し気分転換をしている。家族の同意を得て離床センサーを使用する人もいる。屋外には防犯カメラを設置し、玄関は防犯上、22時30分から翌朝6時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修を通じて意識の統一を目指している。	虐待防止のための認知症ケアについて理解を深める研修を重ねている。不適切な言葉遣いやケアがあった際にはカンファレンスの場で話し合い、注意喚起し意識の共有化を図っている。職員の相談や悩みについては副主任も話を聞き、管理者と共に情報共有し改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている入居者様はいないが、今後、成年後見人制度を活用する可能性のある入居者様もいる為、成年後見人制度についての内部研修を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に説明を行っている。また、改定時には必ず説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等希望を伺っている。	家族からは面会時や電話などで相談や要望を聞いている。12月からワクチン接種証を確認し、利用者の居室での面会を可能にしている。毎月請求書と共に情報紙「森の木かげ」を発行し、家族に近況を知らせ安心してもらえるよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個人面談だけではなく常時気軽に会話できるよう環境作りに努めている。	職員とは、気軽に相談できる職場環境作りに努め、一対一で話を聞くようにしている。カンファレンス時、議題に意見・要望を書く欄を設けている。職員からは事業所のハード面での要望や、業務改善について上げられ、出された意見・要望を運営に反映出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行いモチベーション維持に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を促しているが休日を削って参加していることもある。個人面談時、細かく意見を聞くようにしている。ケアマネジャー取得のバックアップもあり。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で外部研修に参加できてない。電話で他施設と情報交換している。	コロナ禍で外部研修などには参加出来ない。他の施設とは常に情報交換を図り、互いに刺激し合いながら、現状の取り組みや悩みなど共有し、運営に活かしたりケアの質の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人様と会話を密にし、不安なことや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話の際にお話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様へお話を伺いながらカンファレンスにてケアやサービスの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできること(洗濯物たたみや掃除など)を一緒に行ったりゆったりできる空間を提供し職員と気軽に会話できる環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で最近のご様子を伝え、ケアについて相談し家族様に協力できるところは協力して頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であるので電話や手紙のやり取りを行えるよう支援している。	家族からの電話の取次ぎや手紙のやり取りを継続し支援している。コロナ禍で家族と一緒に馴染みの理・美容院へは出掛けられないが、訪問理・美容を再開した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを行っている。人数が多くなると混乱が起こる入居者様には少人数で対応したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も時折電話で連絡をとりご様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを大切にしている。小さい言葉でも入居者様の言葉としてケアに取りいれている。	思いや意向の把握が困難な人は、日常の仕草、声掛けした時の表情などで汲み取っている。職員の気づきなどは都度連絡ノートを活用し情報共有している。定期的にはアセスメントを行い把握に努めている。これらの情報を基に、利用者は洗濯たたみや塗り絵、ゲームなどを企画し、役割を担ったり、楽しみが得られるよう支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様からお話を伺ったりしている。必要に応じて、他事業所様から情報滴強して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやリズム表、連絡帳へ細かく記入している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様から要望を聞いたり日々の関わりから情報を得ている。また、モニタリングの前に職員から情報を収集してカンファレンスにて見直しを行っている。	介護計画は3ヶ月毎に職員全員でカンファレンスを行い見直している。家族からの意見・要望を聞き、医師や看護師の意見も反映し作成している。特に、ターミナル期には家族の要望が多く出されており、計画に生かし支援している。面会出来ない状況時には計画書を郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の暮らしはリズム表に記入して申し送りしている。また、連絡帳やケース記録を用いてカンファレンスで見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と話し合い出来る限り対応しているが、出来ない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であるので町内の行事の参加は出来ていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に毎週通院や往診にて対応している。体調不良時には臨時の通院、往診または法人の看護師へ相談や指示を頂いている。	法人理事長が医師であり、利用者全員のかかりつけ医になっている。週1回、利用者が通院しており、通院が困難な人は往診を受けている。他の専門病院へは基本家族が付き添って受診している。法人の看護師が医療行為や健康管理を担っており、家族や職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様についてきになることや職員からの様々な疑問(医療面に関すること)があれば随時看護師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受け入れがスムーズになるように他医療機関との情報共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している。その状態に近づいてきた場合には改めて話し合いを行っている。	入居時に重度化した場合の方針について説明している。ターミナルケアに入る際に医師から説明があり、事業所で行える今後の方針を説明し家族と話し合い同意を得ている。看取りマニュアルを整備し、看取り後に看護師は、職員と振り返りを行い、心のケアについての支援も行っている。コロナ禍でも、かかりつけ医の判断で、家族が看取りに立ち会うことが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応できるようにマニュアル等を配置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行っている。	年2回、夜間想定、通報、避難、初期消火などの訓練を行っている。例年は法人合同で実施していたが、コロナ禍でユニット毎に行うなど、小規模多機能施設とは別々に行った。消火設備点検は年2回、非常用食料などは3日分備蓄している。各感染症対策として、職員は手洗いやマスク着用の徹底の他、県外に出ないことを取り決め、抗体検査キットも備えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した声かけや対応に努めている。また、職員と一対一で話せる様な時間も確保している。	接遇やプライバシーの研修を行っている。排泄介助時はさりげなく行い、一人ひとりを尊重し言葉掛けや支援方法などに配慮している。呼び名は苗字や名前に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が話したいと思えるような信頼関係を築いていく。また、自己決定ができるように本人様に合わせた対応方法も検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、水分補給時、入浴、通院は時間が定まっているため制限される事があるが、その他は自由にご本人様のペースで過ごして頂けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方にはご自身で行っていただく。出来ない方に関しては職員と一緒に洋服を選んだりしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ渦であるので、現在は行っていない。	メニューは管理栄養士が作成し、食材は本部から運ばれ職員が調理している。朝食のみ業者の調理済みの食事を活用している。月1回、職員が行事食や誕生日にはケーキ等の献立を考え、利用者の楽しみになるよう工夫している。お寿司の出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養師に食事風景や好みなどを把握してもらいご本人様の好まれる物で栄養バランスも対応している。必要時、食事形態についても看護師や栄養師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や毎食口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズム表を使用し、その人その人に応じた排泄支援をおこなっている。	生活リズム表を活用し排泄パターンを把握している。排泄のリズムや排泄の感覚が低下している人に合わせ、リハパンやパッドなどの排泄グッズを使用しトイレで排泄が出来るように努めている。居室にトイレがあり、夜間もタイミングに合わせ誘導している。便秘対策は医師処方薬やヨーグルト、牛乳などを摂り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に相談し便秘や下痢の原因を検討し、介護側で取り組めるものは実行(水分摂取を多くとれるよう促したり、乳製品の提供や適度な運動を行う)便秘予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日に使用できる湯量に限りはあるが可能な限り行っている。	1日に使用できる湯量に限りはあるが、入浴は週2回を基本にしている。浴槽に入れない人には、足浴しながらシャワー浴にするなど工夫している。拒否する人は無理せず清拭に変えたり日にちを変えたりしている。利用者は好みの入浴剤や音楽を聞いて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や疲労の具合を考慮して適度な時間を休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、薬の効能など把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍であるので、中庭の散歩や室内でのレクリエーションを充実させている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるので、外出はできていない。	コロナ禍だが、中庭を散策したりミニドライブを再開するなど、利用者のストレス解消を図るようにし喜ばれている。今後は控えていた外食や買い物、家族との外出など、状況を考慮しながら再開に向け検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には可能な限り自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や居室などに季節感ができるように装飾している。定期的な清掃、環境の整備。	リビングには見当識に配慮した時計やカレンダー等が掛けられ見やすい。季節を感じる貼り絵は利用者と職員が手作りしている。温・湿度の管理や換気にも配慮し、空気清浄機を兼ねた二酸化炭素濃度観測機も設置している。ユニット間にある中庭は季節ごとに花が植えられ利用者の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごせる様に音楽をかけたり、時には皆様に集まりレクリエーションの場になるように心掛けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物を持参されたり過ごしやすいように家族様とも相談しながら行っている。	エアコン、洗面台、クローゼット、トイレを備えベッドはレンタルすることが出来る。居室には表札を掲げたり、好みの目印を付ける人もいる。位牌や好きな洋服を持ち込み、その人らしい部屋作りをしている。職員は担当制で整理整頓、衣替え等、利用者が安心して過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない環境なので自由に動けるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100075		
法人名	社会福祉法人大樹		
事業所名	グループホーム木かげ II 番館		
所在地	宮城県仙台市青葉区西勝山14-8		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域、医療と連携を確保しつつ、入居者様主体の日常生活を基本とし、個別のケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市青葉区の北西部にある閑静な住宅街に2009年に設立された2ユニットの事業所である。母体法人は「社会福祉法人大樹」で、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護が隣接し防災訓練など連携して実施している。事業所理念は「利用者の尊厳を最大限守ること」と、「住宅地に立地する施設として地域住民との触れ合いに努めること」を掲げている。法人の理事長が医師で、かかりつけ医でもあり、看護師とも連携を図り支援していることで、家族はもとより職員の安心に繋がっている。12月からは家族との面会もワクチン接種証を確認し再開している。利用者は周辺の散歩など外気浴で季節を感じ表情が明るくなるので、今後はミニドライブ等の外出再開を考えている。管理者は夜勤時などに職員と一対一で話す機会を設けるなど、副管理者と共に常に話しやすい環境作りに取り組んでおり、長く働く職員が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム木かげ）「ユニット名 II 番館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人理念、事業所理念他、職員が話しあいユニット理念(キャッチコピー)を作成。各理念をいつでも見れるように談話室や玄関に掲示しながら職員間で共有しケアに活かせるように努めている。	法人の基本理念、事業所理念、ユニットごとのスローガンを掲げ、ケアに活かしている。迷ったり不安になった時に振り返れるよう、確認しやすいところに掲示している。理念は年度初めに再確認し、スローガンは利用者の状況変化にも合わせ都度変更し運営に生かしている。特に、地域との関りを重視し理念を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍で出来ていない。	町内会に加入し、地域との交流を大切にしている。コロナ禍で新年会、老人会、敬老会などの行事に参加出来なかった。少しずつ町内会の活動が始まり案内はあるが状況を考慮し控えている。新年会など今後の交流は状況に合わせ検討し、進めていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設見学自体は実施しているが、玄関までの見学になっている(コロナ禍)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議自体は出来ていない。2ヶ月に1度「ご様子」として木かげの現状を伝えている。	隔月、町内会長、副会長、地域包括職員、民生委員、班長、利用者が参加し開催していた。コロナ禍で事業所の情報は文書で配布していたが、12月からは状況を見ながら再開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・必要時連絡をとっている。	入居状況や事故報告など都度連絡している。新型コロナ関連の情報はメールや郵送で届き、ワクチン接種状況の報告や問い合わせも行っている。地域包括職員が運営推進会議に参加し、情報交換が図られ連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修やカンファレンスを通して意識確認、統一を行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、研修も行っている。ヒヤリハット事例をより把握しやすくするため、書式を見直すなど検討している。外出傾向の強い利用者には中庭を一緒に散歩し気分転換をしている。家族の同意を得て離床センサーを使用する人もいる。屋外には防犯カメラを設置し、玄関は防犯上、22時30分から翌朝6時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修を通じて意識の統一を目指している。	虐待防止のための認知症ケアについて理解を深める研修を重ねている。不適切な言葉遣いやケアがあった際にはカンファレンスの場で話し合い、注意喚起し意識の共有化を図っている。職員の相談や悩みについては副主任も話を聞き、管理者と共に情報共有し改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、成年後見制度を利用している入居者様もいるので事例を例題を上げてカンファレンスで確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時に説明を行っている。改定時には必ず説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や随時希望を伺っている。	家族からは面会時や電話などで相談や要望を聞いている。12月からワクチン接種証を確認し、利用者の居室での面会を可能にしている。毎月請求書と共に情報紙「森の木かげ」を発行し、家族に近況を知らせ安心してもらえるよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個人面談だけではなく、常時気軽に会話できるよう環境作りに努めている。	職員とは、気軽に相談できる職場環境作りに努め、一対一で話を聞くようにしている。カンファレンス時、議題に意見・要望を書く欄を設けている。職員からは事業所のハード面での要望や、業務改善について上げられ、出された意見・要望を運営に反映出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行いモチベーション維持に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を促しているが休日を削って参加していることもsる。個人面談時、細かく意見を聞くようにしている。ケアマネジャー取得のバックアップもあり。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ渦で外部研修に参加できていない。電話で他施設と情報交換している。	コロナ禍で外部研修などには参加出来ない。他の施設とは常に情報交換を図り、互いに刺激し合いながら、現状の取り組みや悩みなど共有し、運営に活かしたりケアの質の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人様と会話を密にし、不安な事や要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会や電話の際にお話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族様へお話を伺いながらカンファレンスにてケアやサービスの見直しをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人様の出来る事を一緒に行ったり、ゆったりできる空間を提供し職員と気軽に会話ができる環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や電話で最近のご様子を伝え、ケアについて相談し家族様に協力できる所は協力して頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍であるので、電話や手紙のやり取りを行えるよう支援している。	家族からの電話の取次ぎや手紙のやり取りを継続し支援している。コロナ禍で家族と一緒に馴染みの理・美容院へは出掛けられないが、訪問理・美容を再開した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・行事やレクリエーションを行っている。人数が多くなると混乱が起こる入居者様には少人数で対応したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も時折電話で連絡をとりご様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりを大切にしている。小さい言葉でも入居者様の言葉としてケアに取りいれている。	思いや意向の把握が困難な人は、日常の仕草、声掛けした時の表情などで汲み取っている。職員の気づきなどは都度連絡ノートを活用し情報共有している。定期的にあセスメントを行い把握に努めている。これらの情報を基に、利用者は洗濯たみや塗り絵、ゲームなどを企画し、役割を担ったり、楽しみが得られるよう支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様や家族様からお話伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りやリズム表、連絡帳へ細かく記入している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご家族様から要望を聞いたり日々の関わりから情報を得ている。また、モニタリングの前に職員から情報を収集してカンファレンスにて見直しを行っている。	介護計画は3ヶ月毎に職員全員でカンファレンスを行い見直している。家族からの意見・要望を聞き、医師や看護師の意見も反映し作成している。特に、ターミナル期には家族の要望が多く出されており、計画に生かし支援している。面会出来ない状況時には計画書を郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・1日の暮らしはリズム表に記入して申し送りしている。また、連絡帳やケース記録を用いてカンファレンスで見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族様と話し合い出来る限り対応しているが、出来ない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍であるので町内の行事の参加は出来ていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医に毎週通院や往診にて対応している。体調不良時には臨時の通院、または法人の看護師へ相談や指示を頂いている。	法人理事長が医師であり、利用者全員のかかりつけ医になっている。週1回、利用者が通院しており、通院が困難な人は往診を受けている。他の専門病院へは基本家族が付き添って受診している。法人の看護師が医療行為や健康管理を担っており、家族や職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・入居者様について気になる事や職員からの様々な疑問(医療的な事)があれば随時、看護師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・受け入れがスムーズになるように他医療機関との情報共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に説明している。その状態に近づいてきた場合には改めて話し合いを行っている。	入居時に重度化した場合の方針について説明している。ターミナルケアに入る際に医師から説明があり、事業所で行える今後の方針を説明し家族と話し合い同意を得ている。看取りマニュアルを整備し、看取り後に看護師は、職員と振り返りを行い、心のケアについての支援も行っている。コロナ禍でも、かかりつけ医の判断で、家族が看取りに立ち会うことが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・すぐに対応できるようにマニュアルなどを配置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の訓練行っている。	年2回、夜間想定、通報、避難、初期消火などの訓練を行っている。例年は法人合同で実施していたが、コロナ禍でユニット毎に行うなど、小規模多機能施設とは別々に行った。消火設備点検は年2回、非常用食料などは3日分備蓄している。各感染症対策として、職員は手洗いやマスク着用の徹底の他、県外に出ないことを取り決め、抗体検査キットも備えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人を尊重した声かけや対応に努めている。また職員と一対一で話せる様な時間も確保している。	接遇やプライバシーの研修を行っている。排泄介助時はさりげなく行い、一人ひとりを尊重し言葉掛けや支援方法などに配慮している。呼び名は苗字や名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人様が話したいと思えるような信頼関係を築いていく。また、自己決定が出来るように本人様に合わせた対応方法も検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事や水分補給時は職員側の時間になってしまうが、その他以外は自由にご本人様のペースで過ごしてもらえようように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自立している方はご自身で行って頂く。出来ない方に関しては職員と一緒に洋服を選んだりしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・コロナ禍であるので、現在は行っていない。	メニューは管理栄養士が作成し、食材は本部から運ばれ職員が調理している。朝食のみ業者の調理済みの食事を活用している。月1回、職員が行事食や誕生日にはケーキ等の献立を考え、利用者の楽しみになるよう工夫している。お寿司の出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・法人の栄養士に食事風景や好みなどを把握してもらいご本人様の好まれる物で栄養バランスも考慮し対応している。また食事量の少ない方は看護師と相談し補助食対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・義歯洗浄や毎食口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・その人その人に応じた排泄の支援を行っている。	生活リズム表を活用し排泄パターンを把握している。排泄のリズムや排泄の感覚が低下している人に合わせ、リハパンやパッドなどの排泄グッズを使用しトイレで排泄が出来るように努めている。居室にトイレがあり、夜間もタイミングに合わせ誘導している。便秘対策は医師処方薬やヨーグルト、牛乳などを摂り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・看護師と相談し便秘や下痢の原因を検討し、介護側で取り組めるものは実行(水分多目、乳製品の提供)。実施しても改善がみられない場合は、医師への相談をしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・1日に使用できる湯量に限りがあるが可能な限り行っている。	1日に使用できる湯量に限りがあるが、入浴は週2回を基本にしている。浴槽に入れない人には、足浴しながらシャワー浴にするなど工夫している。拒否する人は無理せず清拭に変えたり日にちを変えたりしている。利用者は好みの入浴剤や音楽を聞いて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間の睡眠状態や疲労の具合を考慮して適度な時間を休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の確認、薬の効能など把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・コロナ禍であるので、中庭の散歩や室内でのレクリエーションを充実させている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍であるので、外出はできていない。	コロナ禍だが、中庭を散策したりミニドライブを再開するなど、利用者のストレス解消を図るようにし喜ばれている。今後は控えていた外食や買い物、家族との外出など、状況を考慮しながら再開に向け検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理ができる方には可能な限り自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に合わせて対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感の取り入れ。定期的な清掃、環境の整備。	リビングには見当識に配慮した時計やカレンダー等が掛けられ見やすい。季節を感じる貼り絵は利用者と職員が手作りしている。温・湿度の管理や換気にも配慮し、空気清浄機を兼ねた二酸化炭素濃度観測機も設置している。ユニット間にある中庭は季節ごとに花が植えられ利用者の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ゆったりと過ごせる様に音楽をかけたり、時には皆様に集まりレクリエーションの場になるように心掛けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人様の馴染みの物を持参されたり過ごしやすいように家族様とも相談しながら行っている。	エアコン、洗面台、クローゼット、トイレを備えベッドはレンタルすることが出来る。居室には表札を掲げたり、好みの目印を付ける人もいる。位牌や好きな洋服を持ち込み、その人らしい部屋作りをしている。職員は担当制で整理整頓、衣替え等、利用者が安心して過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・段差のない環境なので自由に動けるようになっている。		